

梅雨空を吹き飛ばせ！ 多彩なイベント開催



研究発表など活発 第37回黒門祭

「第37回黒門祭」が6月27日から29日まで開かれ、学術文化系の各サークルが日ごろの活動成果を発表した。

生田キャンパスの各教室ではシンポジウムや研究発表などを開催。体育館ではボランティア活動研究会「樹々の会」による子供たちとの運動会などが行われ、にぎわった。(写真は三曲研究会の演奏)



新入生大感激！ 青衿祭 連県主催

連合県人会主催の「第36回青衿祭」

が6月14日、東京・渋谷公会堂で開かれた＝写真。新入生ら約1200人はアトラクションや「クレイジーケンバンド」のライブなど、3時間を超える“祭り”を楽しんだ。



中国チームが激戦制す 育友会会長杯争奪・留学生スポーツ大会

「育友会会長杯争奪・留学生スポーツ大会」が6月22日、専修大学北グラウンドで開催され、約70人が参加して開催され、専大に学ぶ中国、韓国、日本の学生たちによるサッカーの熱戦が繰り広げられた。

昨年も同様の大会が開催されたが、今年は「育友会会長杯」という冠がついての大会となった。多数の応援をバックに激戦を制したのは「中国」チーム。試合後の表彰式では、育友会常任役員の眞淵典男氏から優勝トロフィー、図書券などが贈られた＝写真。

実行委員長を務めた中国留学生会の朴学哲君(商2)は「日本人学生と留学生、そして留学生間の交流を深める意味でも有意義でした。来年以降、さらに盛り上げていきたい」と話している。

[7月15日/ニュース専修1面]

聴衆500人 美しい旋律に酔う 第16回専フィルサマーコンサート



専修大学フィルハーモニー管弦楽団（団長＝林茂法学部教授、学生代表＝渡邊忠篤くん・文3、団員70人）の第16回サマーコンサートが6月27日、川崎市多摩市民館で開催された。民族色豊かなドヴォルザークの「交響曲第8番」など全4曲を披露。団員たちが奏でる美しい旋律に、訪れた約500人

の聴衆は盛大な拍手を送った。

渡邊代表は「昨年同様、地元の皆さんが大勢聴きに来ていただきました。演奏技術面での課題はまだまだ多いですが、皆さんのご期待に応えるよう、今後も練習に励んでいきます」と話していた。

【ニュース専修7月号1面】

都営地下鉄（新宿線・三田線）神保町駅の副名称に「専修大学前」



▲都営三田線は線路奥の壁に上・下線で22枚の大学名が



▲三田線は車内から見えるゲートにも36枚を表示



▲都営新宿線は線路中央柱の表・裏面に大学名を掲出

すでに気付いた方もいらっしゃるかと思いますが、6月から地下鉄都営新宿線・三田線の神保町駅に『専修大学前』の副名看板が付きました。

新宿線はホーム中央の柱に21面×上下線で42枚、三田線は駅名標下に11面×上下線で22枚のほか、ホームゲート裏面にステッカー18面×上下線で36枚が掲出され、とても目立っています。

利用者の皆さん、これからは「神保町駅」を「専修大学前」と呼んでも構いませんよ！

[7月15日/ニュース専修1面]

キャンパス探訪 <9> アートの旅「瞑想する乙女」



夢見るのではない。沈思、黙考するのは、学問する若者の特権であろう。本学創立100年を記念し、生田キャンパス図書館分館前の中庭に配された3体の女性ブロンズ。2号館寄りの像は「Meditation」—熟慮、瞑想、熟考の訳語がある。

他の2体は水着、裸体だが、この像はスーツ姿でひざにノートを置き、遠くに視線を投げかける。何を思うか。毅然として、そして知的である。周囲の櫓が、柔らかく日差しをさえぎっている。

制作は横浜市在住の彫塑家で自由美術会員、井上信道氏。横浜文化賞などを受賞している熟達の芸術家である。キャンパス周辺は、緑地に恵まれている。だが、学内にまとまった緑地は少ない。中庭のベンチで瞑想するのも、また、楽しからずや。

[7月15日/ニュース専修11面]